

2014年10月31日

(ご参考)

**マツダ株式会社**  
**2015年3月期 第2四半期決算説明会**  
(スピーチ要旨)

**代表取締役**

**社長兼CEO(最高経営責任者)**

**小飼 雅道**

**1. 総括**

2015年3月期第2四半期累計実績の総括です。

販売実績は、引き続き好調なCX-5、新型Mazda3／アクセラがグローバルで販売貢献し、グローバル販売台数は66万9千台となりました。

財務実績は、売上高が1兆4,539億円、営業利益が1,040億円、当期純利益が933億円となりました。日本市場に導入を開始した新型デミオは、月間販売目標5千台に対して、9月11日の予約販売開始から10月26日までで累計約2万台の受注をいただくなど好調な滑り出しです。商品面でも、「日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞するなど、高い評価を獲得しています。

また、メキシコ工場は、7月から2直生産体制へ移行し、順調に生産を拡大しています。

通期のグローバル販売台数は、対前年7%増の142万台の見通しです。

通期の利益見通しは、営業利益2,100億円、当期純利益1,600億円と変更はありません。

下期は、新型Mazda2／デミオを、日本に続いて、オーストラリア、ASEAN、欧州など主要市場に順次導入していきます。

また、日本、タイに続いてメキシコでも新型Mazda2の生産を開始しました。

今期中に、新世代商品第5弾 新型コンパクトクロスオーバーSUV「CX-3」の導入を予定しています。

**常務執行役員**

**古玉 尚**

**2. 2015年3月期 第2四半期累計実績**

グローバル販売台数は、前年に対し6%増の66万9千台でした。

引き続き販売好調なCX-5と、グローバルで導入・展開が進んだ新型Mazda3／アクセラの販売増が、全体を牽引しました。

地域別では、引き続き需要が低迷している日本、タイでの落ち込みを、北米・欧州など販売が好調な市場でカバーし、トータルで前年を上回る販売を達成しました。

第2四半期累計の売上高は、対前年16%増の1兆4,539億円となりました。

営業利益は1,040億円と、前年同期に対し300億円の改善となりました。これは主に、SKYACTIV搭載

車両による台数・構成の拡大や、継続的なコスト改善等が寄与したものです。  
経常利益は1,071億円、税引前利益は1,070億円、当期純利益は933億円です。  
為替レートは平均で1ドル103円、1ユーロ139円と、前年に比べ、ドルで4円、ユーロで9円の円安となりました。

各マーケットの状況について説明します。

まず日本では、対前年18%減の9万台の販売となりました。

アクセラの販売は好調を維持しており、消費税の影響による販売減を一部オフセットし、前年比では改善傾向にあります。

新型デミオは期待を上回る立ち上がりとなっています。

今後は、好調な新型デミオの拡販、「Be a Driver」キャンペーン第2弾をはじめとする広告宣伝強化等により、新世代商品全体での台数増加を目指してまいります。

北米では、対前年14%増の22万6千台の販売となりました。

米国の販売は好調で、対前年15%増の16万3千台です。CX-5、Mazda6、新型Mazda3がバランスのとれた販売構成で台数成長を実現しています。

フリート販売を引き続き抑制し、ブランド価値向上への取り組みを継続・強化しています。

メキシコでは、対前年17%増の2万台の販売となりました。現地生産の新型Mazda3の販売が好調で、過去最高の販売台数とシェアを達成しました。

欧州では、対前年18%増の11万4千台の販売となりました。

特に新型Mazda3が台数増に貢献し、CX-5も好調な販売を維持しています。ロシア等を除く欧州の販売は対前年21%増で、全需の伸びを大幅に上回りました。主要マーケットであるドイツで対前年21%増の2万7千台、英国で対前年12%増の1万9千台と、引き続き好調です。ロシアでは総市場が落ち込む中、対前年14%増の2万4千台となりました。

中国では、対前年19%増の9万4千台の販売となりました。

5月に導入した現地生産の新型Mazda3、新型Mazda6の販売は好調に推移しています。

また、発売から1年が経過したCX-5は、発売当初の勢いを維持し、販売に貢献しています。

その他市場では、ほぼ前年並みの14万5千台の販売です。

オーストラリアでは、需要が弱含む中、対前年4%減の4万9千台の販売となりました。CX-5は引き続きSUVセグメントでの販売台数1位を獲得、新型Mazda3の販売は好調です。

ASEANでは、タイでの需要減の影響が大きく、対前年5%減の3万7千台となりました。

タイでは、CX-5、新型Mazda3などSKYACTIV搭載車の販売は好調で、他車種の落ち込みを一部オフセットしています。マレーシア、ベトナムでの販売は好調です。

営業利益の前年に対する改善額300億円の主な要因について説明します。

台数・構成では、SKYACTIV搭載車両の販売拡大およびミックス改善により、381億円の改善となりました。

為替は、USドルで41億円、ユーロで55億円、その他通貨は37億円と、合計で133億円の改善です。

変動コスト領域では、コスト改善の推進により115億円の改善です。

販売費用は、マツダブランドや新型Mazda3、新型Mazda2などの広告宣伝活動強化により、109億円の費用増となりました。

その他 固定費は、開発費、メキシコ工場の固定費等の増加により、220億円の費用増です。

### **3. 2015年3月期 見通し**

グローバル販売台数は、対前年7%増の142万台の見通しです。

北米・欧州は上期の好調なモメンタムを維持し、日本やタイでは新型Mazda2／デミオの導入を梃子に、下期での挽回を図っていきます。

7月公表に対しては、上期実績を踏まえ日本で5千台、中国で5千台引き下げますが、好調な欧州で1万台上方修正し、グローバルでの合計は変更ありません。

通期の売上高は2兆9,300億円、営業利益は2,100億円、当期純利益は1,600億円の見通しです。

販売環境や経済環境など、期中の事業環境の変化等を慎重に見極める必要があることから、通期利益見通しを据え置きます。

前年からの営業利益改善279億円の要因を説明します。

台数・構成では、新型Mazda3の通年販売貢献等により、600億円の改善となる見通しです。

為替は、USドルで30億円、ユーロで21億円、その他通貨で9億円と、合計で60億円改善の見込みです。

コスト領域では、モノ造り革新によるコスト改善の推進等により、150億円改善の見込みです。

販売費用は、新商品の導入やブランドも含めた広告宣伝活動の強化により、150億円増加します。

また、その他固定費は、次世代技術への開発投資強化や、メキシコ工場など海外子会社の固定費増等により381億円増加する見込みです。

#### **代表取締役**

**社長兼CEO(最高経営責任者)**

**小飼 雅道**

### **4. 構造改革プランの進捗**

まず、「SKYACTIVによるビジネス革新」ですが、コアモデルのラインナップ拡充を図ります。

新型デミオは日本市場で受注が好調です。今後、オーストラリア、ASEAN、欧州など主要市場に順次導入していきます。

また、CX-5、Mazda6／アテンザの商品改良モデルの導入に加え、新型コンパクトクロスオーバー

SUV「CX-3」を今期中に導入します。

従来から取り組んでおります正価販売やフリート販売抑制を継続しつつ、台数成長を図ります。

広告宣伝ではマツダブランドに焦点を当てた活動を推進・強化し、ブランドプレゼンスの向上を目指します。

「モノ造り革新」では、新型マツダ2以降の新商品においても、グローバルで品質の維持・向上とコスト改善活動を、手を緩めることなく推進してまいります。

最後に、「新興国事業強化とグローバル生産体制の再構築」についてご説明します。

メキシコ工場は7月より2直生産体制へ移行しました。第1四半期では1万5千台の生産でしたが、第2四半期は3万6千台と、順調に生産を拡大しています。

10月より新型Mazda2の生産を開始し、またエンジン機械加工工場も稼働を開始しました。

また、2016年3月期の年間生産能力は、これまで発表していた23万台から上乘せし、25万台まで増強する予定です。

またタイでは、エコカー認定を受けた新型Mazda2で、下期より販売の拡大を図ってまいります。

## **5. まとめ**

SKYACTIV搭載車両は引き続きグローバルで販売好調で、第2四半期累計のグローバル販売台数は、対前年6%増の66万9千台となりました。

営業利益は1,040億円、当期純利益は933億円と通期計画に対して順調な進捗です。

通期利益見通しは、営業利益2,100億円、当期純利益1,600億円です。経済環境を慎重に見極める必要もあり、通期利益見通しは据え置きます。

下期は、新型Mazda2／デミオを主要市場に順次導入します。また、新型コンパクトクロスオーバーSUV「CX-3」を導入します。

SKYACTIV搭載車両のラインナップ拡充を進めるとともに、メキシコ工場の生産も順調に拡大させ、構造改革プランを着実に推進してまいります。

以上